

NIE 活用を通して、自分自身の考えをもち、発信する生徒の育成

柏崎市立鏡が沖中学校

1 学校の概要

柏崎市立鏡が沖中学校（岸勝巳校長、生徒数 340 人）は、平成 2 年創立、今年度が 28 年目となる。現在、柏崎市刈羽郡内最大規模の中学校である。保護者・地域や小学校と連携し、教育活動の充実を図っている。

教育目標は「自ら学び 共に高め合う 心豊かな生徒」、校訓を「文武両道」とし、学力、体力両面での伸長を意識し、柏崎の鑑（かがみ）となるよう生徒たちは学校生活を過ごしている。

部活動では、運動部・文化部ともに好成績を残し、例年、北信越大会等に出場している。学校行事や学年・学級活動では、人間関係づくりを重視している。年度当初に行う 1・2 年生合同のカラフル集会（多様性を認める会）では、ゲームや不安相談を行う。体育祭における互いを称え合うチーム集会や解散式、合唱コンクールでの全校合唱、遠足など絆づくりの機会を大切にしている。

2 NIE 実践のねらい

本校では今年度の校内研修の研究主題を「自立を目指し、人間関係形成力を高めようとする生徒の育成～学び合いを重視した授業とそばセットを活用した自尊感情を育成する取組～」としている。これを受け NIE では、新聞活用をもとに自分の考えを深め、周りに発信する活動を展開することで「学び合い」を実現していく。また、生徒が自らの考えを周りに発信し、その思いが周りに受け入れられ、認められる体験を多く重ねることで、「自尊感情の育成」を目指したい。そして最終的に、新聞記事を活用することにより社会的事象への関心を高め、社会の一員としてよりよく生きようとする意欲を高めていきたい。

NIE を通して、生徒に身に付けさせたい力は、以下の通りである。

(1) 思考力

- ① 社会への関心をもち、必要な情報を収集する力
- ② 記事や論述をもとに、自らの考えを深める力
- ③ これからの社会をよりよくしていくための手だてを考える力

(2) 表現力

- ① 自分の意見を整理し、筋道を立てて説明する力
- ② 自分の意見を効果的に伝えるために工夫する力
- ③ 周りの人の意見を聴き、感想や良い点などを具体的な言葉で表現し伝える力

3 本年度実践の概要

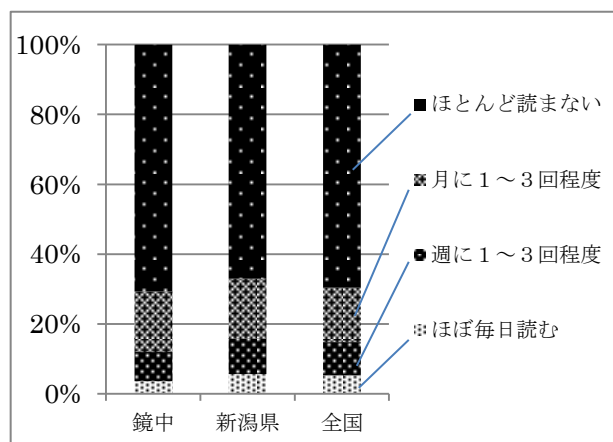
(1) 生徒の実態

全国学力・学習状況調査の結果から、平成 29 年度の本校 3 年生の生徒の実態を見

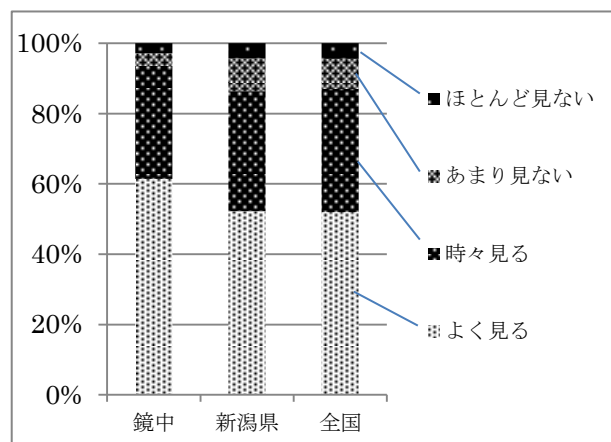
ると、「新聞をほぼ毎日読む」「週に1～3回程度読む」という生徒の割合は12パーセントと、全国平均と同程度の低い状況であった。「新聞をほとんど読まない」という生徒が71パーセントと多く、新聞を読む習慣がない生徒が大半を占めた。

一方で、「ニュースをよく見る」という生徒は62パーセントと、県、全国平均よりも高く、ニュースや社会的事象への関心は高いことがわかった。つまり、生徒の多くは社会的事象に関心を持ち、その情報をテレビやインターネットなどのニュースから得ている。そういった生徒の興味・関心を、新聞活用に生かし、生徒が自分の考えを深め、周りに発信していく力を高めていきたい。

今年度からNIE実践校の指定を受け、9月から12月までの4カ月間に6誌を購読することができた。その4カ月間で生徒が新聞に親しみ、興味関心が高められるように、3つのプロジェクトを立ち上げ、実践した。



あなたは新聞を読んでいますか



あなたはTVのニュース番組や、インターネット、携帯などでニュースを見ますか

(2) 各プロジェクトの実践内容

① 授業実践プロジェクト

各教科で新聞を活用した授業を実践した。実践した授業については、「実践した教科」、「授業のねらい」、「使用した記事・社名・日付」、「指導の要点」を記録した。9月～12月で計9時間（社会、理科、道徳、自立）の実践を行った。授業の導入で、学習内容への興味・関心を高めるために活用したり、展開で新聞記事について自分の考えを深めるために新聞を用いたりした。特定の新聞社の記事を用いるだけでなく、同じ内容について複数の新聞社の記事を比較し、検討するような授業実践も行った。



② NIE コーナープロジェクト

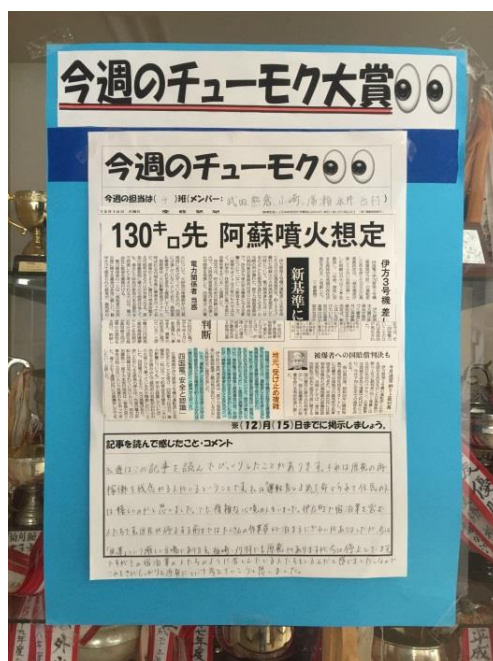
9月より新聞が6紙ずつ購読できるため、各学年の廊下スペースで閲覧できるコーナーを設けることとした。木材を購入して閲覧台を手作りし、新聞を見開きで閲覧できる木製の台を、各スペースに2つずつ設置した。新聞は2紙ずつを1週間ローテで回すことで、全紙に触れられるようにした。NIE 情報発信プロジェクトの取組もあり、休み時間に新聞に触れる生徒が多く見られた。その後、1階生徒玄関脇スペースにカラーボックスを使って6紙のバックナンバーを置き、6紙の比較もできるようにした。



③ NIE 情報発信プロジェクト

各クラスの班単位で新聞を読み合い、気になる記事について考えをコメント欄に書いて教室前廊下に掲示した。生徒会本部役員が全校の記事とコメント欄を読んで歩き、今週の注目大賞を決定し、昼の校内放送で発表し、生徒朝会で紹介した。

さらに、右の写真のように大賞作品は、生徒玄関に掲示し、全校生徒が注目するように工夫した。生徒会本部の役員が、注目大賞を選ぶ観点として、「感想だけでなく、自分たちの考えを書いているクラスを選びました。」と話したことにより、回を追うごとにコメント欄が充実してきている。



(3) 校内研修

6月9日	職員会議 「研修計画の作成と提示」
6月22日(木)	校内NIE全体研修 「NIE実践に向けたプロジェクト部会」 各プロジェクト内での活動内容、役割分担等の検討
7～8月	NIE実践に向けたプロジェクトごとの準備
8月9日(水)	研究推進部会「新聞の基礎理解」 講師 新潟日報柏崎支局長 高橋 渉 様

9月12日（火）	校内 NIE 全体研修 「NIE 実践校から学ぶ」 講義 「NIE 実践 2 年目の計画と今後の展望等」 講師 長岡市立栖吉中学校 教諭 森田華菜子 様 講義 「NIE 実践 1 年目における実践事例と課題等」 講師 糸魚川市立糸魚川中学校 教諭 佐藤 勝久 様
9月～12月	プロジェクトごとの NIE 実践 （授業実践プロジェクト，NIE コーナープロジェクト，NIE 情報発信プロジェクト）
1月22日（月）	校内 NIE 全体研修 「授業公開・協議会」 御指導 上越教育大学大学院学校教育研究科教授 釜田 聡 様
2～3月	研修のまとめ，次年度の構想

4 実践例

1年2組 学級活動 学習指導案

平成 30 年 1 月 22 日 第 5 校時
授業者 教諭 清野 恵

(1) 題材名

よりよい友人関係

(2) 題材設定の理由

中学生の時期は、信頼できる友達を得たいと願う一方で、感情の行き違いにより生じる言動から、信頼できる関係を友達と作ることができていない生徒も少なくない。

そこで、友達と良好な関係を作るために日常生活で心がけることを自分で考える力を育てたいと考え、本題材を設定した。

(3) 資料について

本授業では使用するものは、『読売新聞』の「人生案内」から中学生が興味を持ちやすい女子生徒の人間関係に関する相談記事である。新聞記事を用いることで身近な人間関係のトラブルを客観視できる。冷静に友達との良好な関係づくりについて考えることができる授業にしたい。

新聞記事には、誰もが軽率にとってしまった行動や、経験したことのある状況が含まれている。本授業を自分の普段の行動を振りかえるきっかけとしたい。そして、自分の何気ない行動も、誤解されたり、相手に負担をかけてしまったりすることがあることにも気付かせたい。

また、生徒は簡単に「本当の友達」「信頼できる友達」という言葉を口にするが、「本当の」「信頼できる」友達とはどのような存在なのかについても考えさせたい。



『読売新聞』 平成 29 年 11 月 4 日 (土)

(4) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 生徒の反応	○教師の支援 ●留意点	※評価(方法)
導入 15 分	○新聞記事を配り，登場人物を確認する。 ○教師が判読する内容を聞きながら，新聞記事の「ここが良くない！」と思う行動や言動に線を引き，状況を整理する。(個人) ・ A 子はイライラをそのままぶつけてしまったことが良くないと思う。 ・ B 子は A 子が限界なことに気付かなかった所が良くないと思う。 ・ 3 人は無責任に「言いたいことを言って」と言ったことは良くないし，A 子が無視したことは良くないと思う。	○登場人物と状況をパワーポイントで確認する。 ●登場人物を 3 つに分け，それぞれの立場から良くない行動を考えさせる。 (A 子：相談者 B 子：わがまま 同じグループの友達) ●線を引いた理由を空いているスペースに書かせる。	
展開 25 分	○A 子の相談からいつまでも仲の良い友人関係で大切にすることを学ぶ。 本当の友達になるには ○ロールプレイで 3 者の気持ちを理解して，A 子の伝え方を見つめ直す。	○ロールプレイのやり方をパワーポイントで説明する。	

(1) 5 人班で役を決める。 A 子役：1 人 B 子役：1 人 同じグループの友達：3 人 ※4 人班の場合は 2 人 (2) 『①今までの A 子』の状況を演じる。 (3) 『②5 人で集まったときの A 子』の状況を演じる。 (4) 自分が演じた役で、「演じてみてどのような気持ちになったか」記入する。 (5) 班で全ての役の気持ちを共有する。 (6) ①, ②の言い方では、言いたいことが伝わらずに誤解を生み、いい友人関係は築けないことを確認する。 ・①B 子の立場「何かあるのは気のせいかな。」 ・②B 子の立場「イライラしながら言われると、反省できない。」 ・①3 人の立場「ハッキリいってほしい。」 ・②3 人の立場「そんな言い方しなくても…」 ○後日、A 子と B 子が 2 人で話すことになったと想定して A 子のセリフを考える。 (1) 個人で考える。 (2) 班で共有する。 (3) クラスで共有する。 ・言い過ぎてごめん。言い方もひどかった。あなたとは一生の友達でいたいから、私の思っていることを伝えたくて。私、こういう所が辛かったの。伝え方が下手でごめん。 ○相手の立場や心情を考えながら伝えることの大切さを確認する。	●演じた役の気持ちを班で発表し、共有することで演じていない役の気持ちも理解させる。  ●『相手のことを気にしすぎていては自分の思いは伝わらないこと』, 『相手のことを考えないで自己主張すれば友人関係は上手くいかない』ことを確認する。 ●A 子のセリフを考える際、A 子の思いを伝えつつ、B 子の「ごめん。私も悪かったから気を付けるね。」という素直な気持ちを引き出せるようなセリフを考えさせる。 ○発表の様子から、相手の立場や感じ方、心情	※ロールプレイを通して、登場人物の気持ちを想像し、自分も相手も尊重した伝え方を考えることができたか。(ワークシート)
---	--	---

		を考慮して伝えようとしていることに注目させる。 ●相手の立場や心情を考慮しながら伝えるポイントを確認する ①自分の気持ちを素直に伝える。 ②柔軟な言い方で伝える。 ③自分も相手も尊重して伝える。	
終末 10分	○今日の授業を振り返り、『分かったこと・思ったこと・感じたこと』を記入する。	●自分自身の友達との付き合い方を振りかえらせる。 ○相手の立場や心情を考慮しながら伝えるポイントを参考に、友人関係で大切にすることを考えさせる。	※友人関係で大切にすることを、自分の言葉でまとめることができたか。 (ワークシート、発表の内容)

(5) 授業協議

- 新聞記事が生徒の実態に合っていて、興味をもって取り組んでいてよかった。
- ロールプレイをすることで、生徒は自分のこととして考えやすくなった。
- 登場人物が5人と多く、それぞれの立場の気持ちを推し量るには時間が足りない。
- ◎ 相談に対する回答の記事も生徒に提示し、読む時間を確保できるとよい。
- ◎ 他社の同様な記事もスクラップし、比較しながら活用していけるとよい。

(6) 御指導

- ・テンポがよく、時間の収まりもよく、とてもよく練られた授業であった。
- ・生徒の動きや目の輝きがとてもよかった。
- ・新聞記事は学習内容以外のものが含まれているため、指導に広がりが出せる。
- ・記事の中で不要な部分は、削除してもかまわない。
- ・授業で新聞記事を扱うときは、必ず記事の現物を生徒に見せる。(スクラップせずに)

5 成果（おわりに）

3つのプロジェクトを実践した後、生徒にアンケートをとった。以下のグラフのような結果になった。

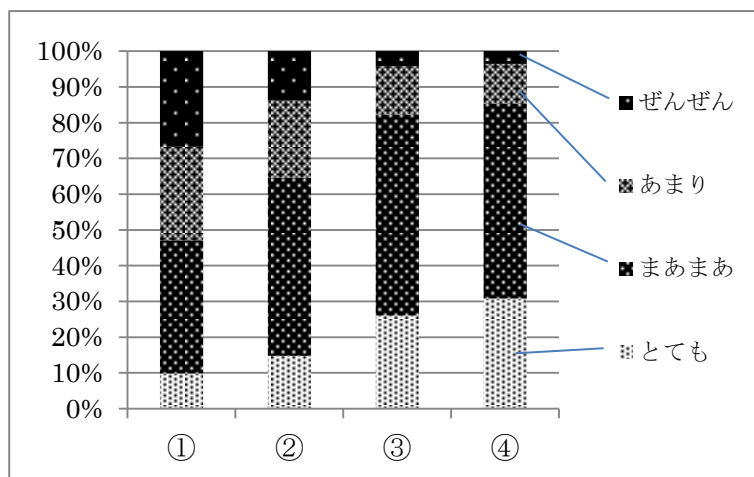
「新聞を読む機会が以前より増えた」と肯定的に答えている生徒は47パーセントであった。閲覧コーナーを中心とした「新聞に親しむ環境づくり」の効果が表れた。しかし、まだ半分以上の生徒が否定的な回答であることから、今後もさらに工夫した取組が必要である。

また、「掲示物を見て、新聞への関心が高まったか」という質問に対しては、65パーセントの生徒が肯定的な評価であった。情報発信プロジェクトによる「今週のチュウモク」は、記事を選んで発信する側も、それを読んで情報を共有する側も、生徒はいきいきと取り組んでいた。閲覧コーナーの新聞よりも目に触れやすく、気軽に読むことができるため、多くの生徒にとって新聞への関心を高めるよいきっかけになったようである。来年度は生徒会の活動とも連携し、各専門委員会で「〇〇委員会のチュウモク」など、活動の充実化も図っていききたい。

「新聞記事を使った授業は楽しい、考えを深められた」と答えた生徒は、いずれも80パーセント以上となり、今年度の授業実践が生徒の学習意欲喚起につながった。今後も各教科で実践を積み重ね、生徒の「考え、発信する」力を伸ばしていきたい。一方で、



教師側の準備の大変さを理由に、実践に消極的となる場面があった。授業の展開のメインとして大きく新聞記事を扱うことにこだわらず、導入や終末で補助的に記事を取り上げるなど、構えすぎることなく積極的に実践していく意識を大切にしたい



- ① 9月から12月で、新聞を読む機会が以前より増えましたか
- ② 校内に掲示されている新聞記事などを見て、新聞への関心が高まりましたか
- ③ 今年度、新聞記事を使った授業は、楽しいと感じましたか
- ④ 新聞記事を使った授業で、自分の考えを深めることができましたか